

ふしぎなたいこ

(六分三十秒)

劇団 オン・サンタ

むかし あったとき

あるところに源五郎という人が住んでいた

源五郎は不思議な太鼓を持っていた…その太鼓の片方をたたいて

「ほな ほな たーかくなーれーつ」というと鼻が高くなる…反対側をたたいて

「ほな ほな ひーくくなーれーつ」というと鼻が低くなるのだった…

1

だけど…その太鼓は人を喜ばせるためでなければ使つてはいけないことになつて
いた…

源五郎はその太鼓をたたいて よその人の鼻を高くしたり低くしたり大変喜ば
れていたんだとさあ…

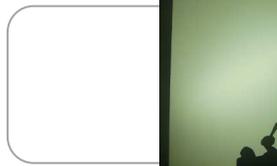
ところがそのうち源五郎は人間の鼻がどのくらい伸びるものか試してみたくな
った…

そこで ある お天気の良い日に太鼓を持って野原に出かけた…そして…

「おーれのはーなーたーかくなーれー」ドンドコドンドコと太鼓をたたいた

2

劇団 オン・サンタ



すると源五郎の鼻はニヨキニヨキ延び始めて手の長さぐらいになった…それでも
「おーれのはーなーたーかくなーれー」ドンドコドンドコ…と太鼓をたたき続
けた

すると源五郎の鼻はニヨキニヨキ伸びて両手を広げたくらいの長さになった…
それでも「おーれのはーなーたーかくなーれー」ドンドコドンドコ…と太鼓をたた
き続けた

すると源五郎の鼻はニヨキニヨキ伸びて電信柱ぐらいの長さになった…
もう鼻が重くて重くて倒れそうになったので源五郎は横に寝て、鼻を天に向け
てまた…

3

「おーれのはーなーたーかくなーれー」ドンドコドンドコ…と太鼓をたたき続け
た

すると源五郎の鼻はニヨキ ニヨキ ニヨキ ニヨキ 伸びて木よりも高く…ニヨキ
ニヨキ ニヨキ ニヨキ山よりも高く…ニヨキ ニヨキ ニヨキ ニヨキ と伸びて白い雲の
中に入ってしまったとさあ…

劇団 オン・サンタ

ちようどその日…空の上では天国の大工さんが天の川に橋をかけているところ
だった…そこへニヨキ ニヨキ と源五郎の鼻が伸びてきたので大工さんはその鼻を
棒と間違えて橋の欄干にしっかり縛りつけてしまった…
さあ…野原に寝ていた源五郎はびっくりした…それからいくら太鼓をたたいて
も鼻が伸びないで曲がるばかり…それどころか白い雲の中で鼻の先が何だかムズム

4

劇団 オン・サンタ



ズするので源五郎は：

「これはおかしい：ひとつ鼻を縮めて調べてみよう」と考えて太鼓の反対側をたたきはじめた：おーれのはーなー ひーくくなーれ：」ドンドコ ドンドコ：ところが鼻の先は天の川の橋の欄干にしばりつけられていたから鼻が短くなるにつれて源五郎の体はだんだん地面から持ち上がり始めた：

「これはたいへんだ：誰かがオレの鼻を取ろうとしている：早く行って取り返さなければ：」といって源五郎はドンドコドンドコ太鼓をたたいてとうとう雲の上まで来た：

けれども天の川の橋のあたりには誰もいなかった：ちょうどお昼で大工さんはご飯を食べに家へ帰っていたのだった：

5

なんだ誰かが間違えてオレの鼻を橋の欄干にしばってしまったんだな：あわてんぼうだなあ」源五郎は急いで縄を解き、鼻をもとの形に戻して一安心したんだとさあ：

ところが困ったことになった：長い鼻がなくなったのだから今度はどうやって家へ帰ったらいいのだろう：源五郎が橋の上で考え込んでいるうちに足元の白い雲がちょっと切れた：そうしてずーっと下の方に真っ青な湖が小さく見えた：それがキラッと光ったのでそれを見た源五郎は「あーっ」といって目を回した：そしてステンコロリん天の川の橋の上からまっさかさまに転がり落ちた：ビューン：バッシャーーン

落ちたところは琵琶湖という大きな湖だった：源五郎はブルンブル

6



ルンと水を吐き出して一生懸命泳ぎ始めた：けれども何だか自分の体が
変わっていることに気がついた：手や足はなくなって、代わりに小さな
尻尾とひれがついている：そして鼻と口はとんがっていた：源五郎は小

劇団 オン・サンタ

さい魚になってしまったんだとさあ：

いっちゃんぽーんさけた：

《参考資料》

「ふしぎなたいこ」 石井桃子文 岩波書店

「ふしぎなたいこ」 福娘童話集